

「キャンパス活性化リノベーション事業」 基金募集のお知らせ（開学70周年記念事業）

（北海道教育大学基金／キャンパス等指定事業、附属学校（園）支援事業）

共感する。

33年前の旭川キャンパス（1986年（昭和61年））

資料請求・お問い合わせ

国立大学法人 北海道教育大学基金事務室

<https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/>

〒002-8501

札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学事務局総務部総務課内

電話：011-778-0206／011-778-0915

F A X：011-778-0631

E-mail：s-somu@j.hokkyodai.ac.jp



皆様の【共感】が、キャンパスを再生します。



北海道教育大学長

蛇穴 治夫

教育における【共感】

日頃より、本学の教育・研究に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学は、地域に愛着を持ち、その成長と発展に力を尽くすような教員と地域人材を養成すべく、教職員一丸となって取り組んでいます。

今、急速に変動する社会にあって、求められる人材像も大きく変わってきました。それは、大学教育の内容や方法も変えていかなくてはならないことを意味し、そのための基盤的な建物や設備の整備・拡充が必要不可欠です。さらには老朽化したものの改修・更新も必要となります。

私たちは、限りある予算の中で、経費の節減や事業の効率化を図りながら財源を捻出し、そのような課題に対応していますが、国の予算化を待っては、やりたいこと・やらなければならないことが滞ってしまいます。また、優先順位に囚われていると、学生の修学環境改善を含めた魅力あるキャンパスづくりに、必ずしも十分に対応できないという現状も生まれます。

そこで、新たな時代の幕開けになった令和元年に、本学が70周年を迎えることを機に、この度、魅力あるキャンパスづくりの推進に向けた事業を企画いたしました。「共感」をキーワードとして寄付を募り、本学の予算と合わせて夢を実現していくというものです。

キャンパスには「学生の声」と「学生を思う教職員の思い」があります。その「声」と「思い」を、まずお聞きください。学生と教職員が、キャンパスの再生・刷新・創造（リノベーション）による、魅力ある「活きた」キャンパスづくりを提案いたします。それに「共感」いただけましたら、ぜひご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

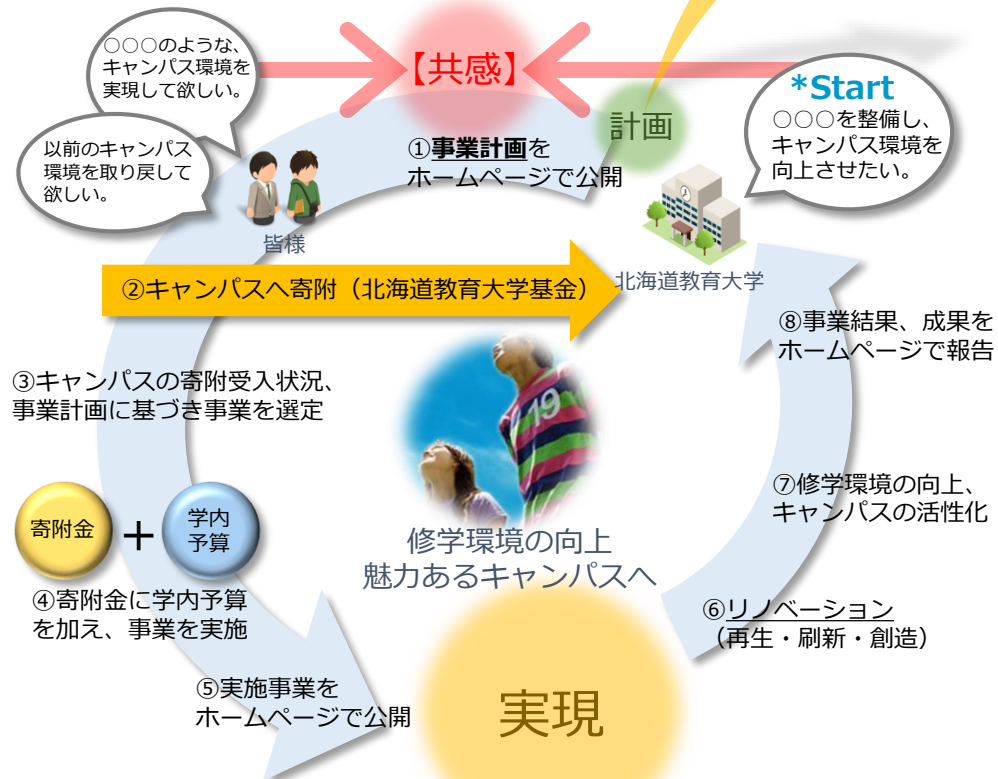
NEXT / 事業の概要、イメージ

キャンパス活性化リノベーション事業について

学生の声、教育現場の「見える化」

- *大学の建物や設備は、今どのような状況なのか。
- *それに対し、大学はどう対応しようとしているのか。

「学生の声」や「学生を思う教職員の思い」を、「事業計画」としてホームページで公開します。教育現場を「見える化」することで、開かれた大学を目指すとともに、皆様の【共感】を糧として、魅力ある「活きた」キャンパスへと再生・創造します。



※ご支援頂いた寄附金は、「事業計画」に基づく事業など、キャンパス、附属学校園の「修学環境等を整備する事業」の実施に活用します。

事業計画のイメージ例

学生からの要望を踏まえ、老朽化したトイレの改修や、共用スペースの充実など、より良い修学環境を整備するためのリノベーション（再生・刷新・創造）事業を計画します。

とりわけ、老朽施設・設備のリニューアル促進・加速を通じ、ブランド力の向上を図ります。

共用スペースの充実、修学環境の整備

【整備前】



スペースが手狭であり、設備も老朽化が著しい

【整備後】 学内予算による整備事例：附属図書館札幌館ラウンジエリア



スペースを拡張し、飲食可能なラウンジエリアを整備

【整備前】



老朽化した共用スペース

【整備後】 学内予算による整備事例：釧路校キャリアセンター



フローリングカーペットを更新し、ミーティングカウンターを整備

※上記はイメージであり、実際の事業計画とは異なります。

ブランド力の向上

キャンパスの再生と創造への「共感」。